

山梨県若者海外留学体験人材育成事業（大学生等コース）

県政の課題（テーマ）報告書

平成 30 年 9 月 4 日

山梨県知事 殿

氏 名 徳嶽芙美  
留 学 先 アメリカ合衆国 アイオワ州  
デモインエリアコミュニティ  
カレッジ  
留学期間 平成 29 年 8 月 5 日  
～平成 30 年 8 月 5 日

1 研究の課題（テーマ）

富士の国やまなし観光 PR の強化のために必要な取り組みについて

2 概要

与えられた県政の課題（テーマ）の解決に導く考え方及び対応策等

今回私に与えられた研究テーマは、「富士の国やまなし観光 PR の強化のために必要な取り組みについて」である。私が以下にまとめていく考察・提案により、山梨の PR 活動の活性化、山梨の認知拡大に貢献できるのではないかと考えている。

まず、山梨県が現在までに行っている PR の具体的な取組内容として、ダイナミック・アクション 2018、戦略的な観光プロモーションの実施<sup>1</sup>によると、①富士の国やまなし観光ネットのリニューアルによる情報発信の強化②中京圏における情報発信の強化③ハローキティを活用した情報発信の強化の 3 つだと分かる。また、山梨県が舞台に描かれ、県内の様々な観光スポットが登場するアニメ「ゆるキャン△」にも注目が集まっているようだ。富士の国やまなし観光ネット上でこのアニメの特集が組まれたり、聖地巡礼 MAP が作成されたりするなどし、アニメに登場した本栖湖浩庵キャンプ場においては、2 月の利用者数が前年の 3 倍になったという。さらに、平成 29 年山梨県観光入込客統計調査結果<sup>2</sup>によると、2017 年に県内を訪れた観光客は前年比 0.4%増加の 3,216 万 2 千人、外国人延べ宿泊者数は前年比 11.8%増加の 153 万 3 千人で、これらの結果はともに過去最高を更新している。

これらの数字より、山梨県がこれまでに積み重ねてきた観光分野への取り組みの成果が十分に出始めているように考えられる。特に、山梨県は 2006 年頃には各所への Free Wi-Fi の設置、多言語でのエアポータル<sup>3</sup>の開設をすでに実現させており、当時より先進的なインバウンド施策に力を注いできた。その結果として、外国人延べ宿泊者数においては、153 万 3 千人という数字へとつながったと推測できる。

一方、観光客全体の人数に焦点を当て、ここ 3 年間の山梨県観光入込客統計調査結果<sup>3</sup>を見合わせてみると、伸び率は年々低下してきていることが分かる。この点を山梨県の観光 PR において強化が必要な課題と捉え、数ある山梨県の観光資源から

「富士山」と「ワイン」にしぼり、

- 観光客の満足感・特別感
- リピート客の獲得
- 訪れる人のニーズに対応

という点に特化した取り組みとして以下に2つの提案例を挙げることで、課題解決へと導くことが可能ではないかと考える。

#### 提案例① 参加費を設けたごみ拾い活動の拡大

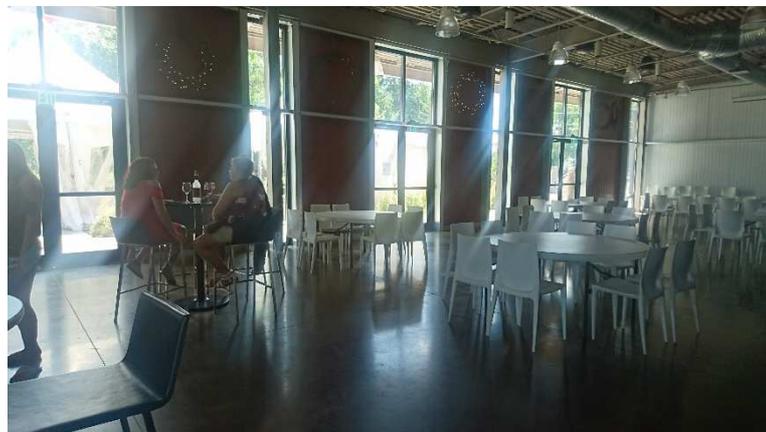
山梨県の貴重な観光資源である富士山は2013年に世界文化遺産登録され、PR活動はより活発化し、以前に比べると登山者数も増加している。そんな富士山には、依然としてごみ問題は存在している状態だ。様々な団体や組織、ボランティアによって富士山に放置されるごみの回収が進むにも関わらず、未だに登山者によるごみの不法投棄は後を絶たない。清掃登山のツアーや無償ボランティアの募集はインターネット上で見かける機会があるが、参加費を支払う形のごみ拾い活動はあまり耳にしない。しかし、参加者に対し適切な参加費を設けられたごみ拾いは、他のボランティアにはない満足感・特別感を与えられると考えられる。集められる参加費の具体的な使い道は、参加者の食事、富士山の保全、ごみの処理、次回参加者募集のための広告費などとし、活動終了後には参加者に対して報告を行うことを徹底する。また、この活動への参加者に対して有効期限付きの山梨県内の指定ホテルのクーポン等を発行することで活動の一部を還元することが望ましいと思われる。それにより、再び山梨県を訪れてもらう機会を生み出し、リピート客や滞在型の観光客を獲得することが可能となると推測される。

ボランティア活動は基本的には無償で行われることがほとんどである。時には、無償で参加できるうえに食事も配布してもらえるものさえある。しかし、私の提案するごみ拾い活動では、有名な観光地にわざわざ足を運び、周りが観光・登山を楽しむなか自分は世界文化遺産の環境保全に貢献しているということになり、特別感が得られることは確かである。また、支払ったお金がきちんと自分達や富士山のために使われている、という満足感にもつながる貴重な体験となるに違いない。そして何より、富士山としてもごみ問題は深刻であると思われ、この活動を受け入れる側のニーズにも対応しているという点で、有効な策であると推測できる。

#### 提案例② 中心部へのワイナリー設置

山梨県内には、約90のワイナリーがあるが、甲府市にはわずか4つのワイナリーしかない。それに加え、アクセスが良く、人の集まりやすいと思われる甲府駅に近いワイナリーは、たった1つである<sup>4</sup>。山梨県を訪れる人々の目的を再考してみると、観光はもちろんのこと、ビジネスでやって来る人も少なからずいるはずである。そのようなビジネス目的の人々のニーズに対応して、ワインを観光要素のひとつに取り入れてPRしていかう、というものだ。その時に重要なこととして、アクセス

の良さ、多目的スペースの確保だと考える。



これらの写真は、留学先であるアメリカ合衆国アイオワ州デモインにある Jasper Winery<sup>5</sup>というワイナリーだ。アイオワ州には旅客用の鉄道は通っていないが、代わりにデモイン国際空港があり、このワイナリーはその空港のすぐ近くに存在する。販売は主にこのワイナリーとオンラインで行われ、写真1枚目の左端に写っているように敷地内でブドウの栽培も行っている。

また、テイastingや結婚式だけでなく、フィットネスイベントや、各種パーティーも開催され、多様なニーズに対応できる場所となっている。私が特に注目した点は、イベント・ミーティングルームの広さだ。これだけの広さがあれば、幅広

くイベント開催が可能となるだけでなく、ミーティングのために使用する際にも、数人単位の小規模なものから大規模なものまで収容可能となる。山梨県の中心部にも、この Jasper Winery を参考に、よりビジネス目的の人をターゲットとした設備のワイナリーを設置することで、アクセスは良く、山梨の特産品にも触れる機会が生まれることから、需要は高まるのではないかと考えられる

以上2つが、与えられたテーマに対する考察・提案である。山梨県の観光客数を増加させるためにも、PRは重要なポイントであり、山梨県に合い、かつ訪れる人のニーズにも合わせた方法を見つけ、実施していくことが大切だ。

#### 〈参考〉

1. ダイナミック・アクション 2018  
[https://www.pref.yamanashi.jp/seisaku/dynamic\\_action/documents/10\\_18kan-ko.pdf](https://www.pref.yamanashi.jp/seisaku/dynamic_action/documents/10_18kan-ko.pdf)
2. 平成29年山梨県観光入込客統計調査結果  
<http://www.pref.yamanashi.jp/kankou-k/documents/h29gaiyou.pdf>
3. 平成29年山梨県観光入込客統計調査結果  
<http://www.pref.yamanashi.jp/kankou-k/documents/h29gaiyou.pdf>  
平成28年山梨県観光入込客統計調査結果  
<http://www.pref.yamanashi.jp/kankou-k/documents/h28gaiyou.pdf>  
平成27年 山梨県観光入込客統計 調査結果  
<http://www.pref.yamanashi.jp/kankou-k/documents/h27gaiyou.pdf>
4. 甲府市ホームページ 観光情報 ワイン  
<http://www.city.kofu.yamanashi.jp/welcome/brand/wine.html#jozo>
5. Jasper Winery <http://jasperwinery.com/>

### 3 添付書類

詳細について、図・表・写真などの資料も含めてA4縦版5枚以内にまとめて報告してください。

※パソコン・ワープロの使用可（使用する文字は12ポイントとしてください。）